



ヒラメ（瀬戸内海系群）

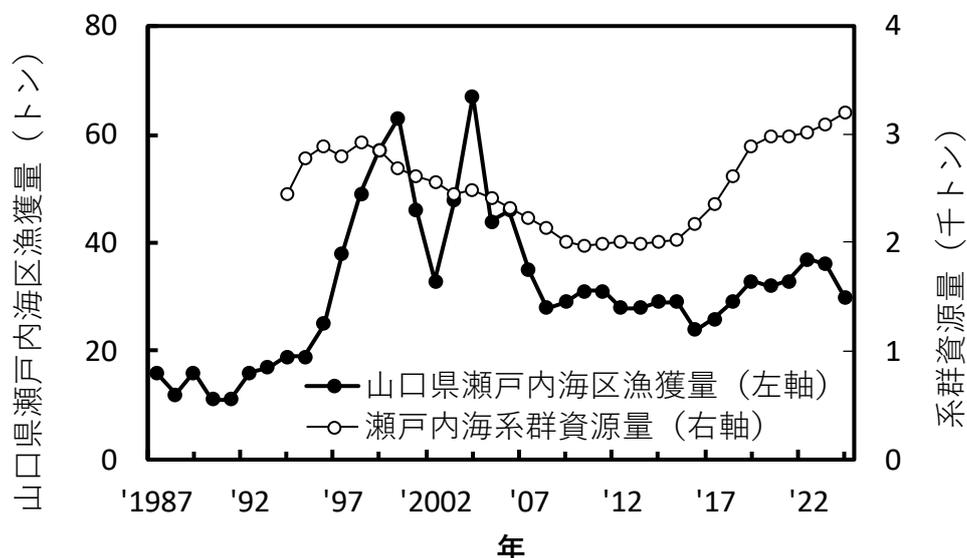


図 山口県瀬戸内海側ヒラメ漁獲量（農林水産省統計情報水産業調査 HP）及び瀬戸内海系群ヒラメ資源量（(国)水産研究・教育機構資源評価報告書）の推移

【漁業】ヒラメは主に小型底びき網（以下、小底）、刺網、定置網、釣漁業（延縄を含む）で漁獲される。漁法別漁獲量では小底が中心であり、2024 年における割合は小底 55%、刺網 21%、定置網 18%、釣漁業 6%であった。秋には未成魚、冬から春にかけては成魚が漁獲の主体となる。

【漁獲量】山口県瀬戸内海の漁獲量は、1987～1995 年には 20 トン未満で推移した。1996～2007 年には増減を繰り返しながら 2004 年に最高 67 トンを記録した。2008 年以降は 30 トン前後の横ばいで推移している。2024 年は 30 トン（概数値）であった。

【資源状態】系群全体の 2024 年資源量は 3,211 トンで、1994 年以降最大となり、最大持続生産量 (MSY) を実現する親魚量 (SBmsy) を上回った。本系群に対する漁獲圧は長期的に低下傾向にあり、近年の 0 才魚資源尾数には不確実性が高いものの、特に若齢魚に対する漁獲圧は低い水準にあると考えられる。漁獲圧は 2020 年以降継続して親魚量を維持する漁獲圧 (Fmsy) を下回っており、本系群においては、これらの低い漁獲圧と安定した加入により近年の資源量の増加がもたらされていると推察される。

ヒラメ瀬戸内海系群の資源評価関係指標値等 (単位: トン)

2024 年漁獲量	最大持続生産量 (MSY)	2024 年親魚量	目標管理基準値 (案)	限界管理基準値 (案)	禁漁水準 (案)
527	806	2,464	2,400	900	100